令和８年度第１回調布市社会教育委員の会議　議事録

１　日　時　　令和８年５月１２日（火）午後１時３０分から午後４時２０分まで
２　会　場　　調布市教育会館３階３０１研修室
３　出席者　　８人
　篠﨑議長、土橋副議長、金井委員、進藤委員、田村委員、塚松委員、原田委員、平澤委員
４　傍聴者　　４人
５　事務局
　社会教育職員　４人
６　議　題
(1)　報告事項
　ア　令和８年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会について（資料１－１、資料１－２）
　イ　令和８年度学習グループサポート事業について（資料２）
(2)　情報共有事項
　ア　令和８年調布市公民館運営審議会第２回定例会について（資料３）
　イ　令和８年度事業計画について
　　(ｱ)　調布市公民館事業計画（資料４－１）
　　(ｲ)　調布市図書館事業計画（資料４－２）
　　(ｳ)　調布市郷土博物館事業計画（資料４－３）
　　(ｴ)　調布市武者小路実篤記念館事業計画（資料４－４）
　　(ｵ)　調布市教育部社会教育課事業計画　（資料４－５）
(3)　協議事項
　ア　令和８年度調布市社会教育関係登録団体活動事業補助金の申請団体について（資料５－１、５－２、５－３）
　イ　調布市社会教育計画について（資料６）
(4)　その他

７　議事録
(1)　報告事項
**　ア　令和８年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会について（資料１－１、資料１－２）**
　配付資料のとおり事務局から説明した。

○篠﨑議長
　非常にわかりの良い笹井会長の話であり、社会教育とは何かということを理解するためにも、委員の方々もできる限りこのような機会に出席されるとよい。今回の話では、学校教育はかなり制約があり、そして反対に社会教育は自由であるというような観点と、社会教育は法律で決められていることであり、生涯学習は理念であって考え方であるということ。そ

のあたりの考えをまとめていくことが必要だろうという話があって、私も随分色々な話を聞いてきたが、大変分かりやすい内容であった。このスライド資料を後でご覧になると、意外と理解が進むのではないかと思う。

○土橋副議長
　今回初めて出席したが、色々な地域の委員が出席していた中で、社会教育委員の役割をもう一度再確認できたことは、すごく有意義な時間であった。小金井市のほか、他の市の社会教育委員の方が団体でまとまって参加しているところもあったので、機会があれば、皆さん出席していただければと思う。

イ　令和８年度学習グループサポート事業について（資料２）
　配付資料のとおり事務局から説明した。

○篠﨑議長
　事務局に確認であるが、資料を見ると長年活動を続けている団体も多いが、新しい団体を開拓するための工夫は行っているのか。

○事務局
　グループの募集は毎年、市報やホームページ等で行っており、例年は前年度の夏の早い段階での事前募集に手を上げない限り、そもそも正規の応募ができない仕組みであったが、その点が申請のハードルになっていたため、今回から申請の流れを変えて、４月から一斉スタートで応募をかけて、新規の参入がしやすいようにした。今回新規で１グループから申請があったが、すぐにたくさんの手が挙がるものではないと認識している。

○原田委員
　市報の記事は、ふつうに見て市民の目に留まるレベルの内容なのか。

○事務局
　市報で見て、パッと目について見つけられるか、または興味がある方がホームページを検索してたどりつけるかというレベルではある。ＳＮＳなどで募集するような内容でもないためリーチが難しい面がある。

○原田委員
　興味のない方は見ないという前提はあるが、社会教育に限らず、調布市の補助金といった申請全般の内容について見やすくした方がよい。

○事務局
　広報部門を含めて、今後の市の課題として検討していく。

(2)　情報共有事項

ア　令和８年調布市公民館運営審議会第２回定例会について（資料３）

配付資料のとおり事務局から説明した。

○篠﨑議長

何か意見や質問はあるか。

○平澤委員

毎回報告をいただいているが、年間を通して折れ線グラフなどで利用の増減が分かると、利用者が少ない月には、増やす方策を考えるきっかけになるのではないか。

○金井委員

コロナ禍の前に戻りつつあるという説明があったが、コロナ禍前の人数について分かる資料があると比較しやすいのではないか。

○進藤委員

少しずつ利用者が増えてきていることが分かったが、利用者の中で学習グループサポート事業に応募するようなグループが出てきてもらえたらよい。何年か前に子育てサークルが学習グループサポート事業に利用されたときに、公民館職員に紹介されたという話を聞いている。せっかく公民館に来ているグループなので、そういうところで事業を利用してもらえるとよい。

○篠﨑議長

事務局でも、そういったアイデアを取り入れて検討してもらいたい。

(2)　情報共有事項

イ　令和８年度事業計画について

(ｱ)　調布市公民館事業計画（資料４－１）

配布資料のとおり、東部公民館長から報告した。

○篠﨑議長

最近、新しいサークルができ上がったとか、そういうようなことは結構あるのか。

○東部公民館長

前回の公民館運営審議会の際に３団体が承認された。

○篠﨑議長

どんな活動をしている団体か。

○東部公民館長

先ほど情報共有事項で説明のあった資料３にある調布市公民館運営審議会第２回定例会日程の日程第２・審議事項の中で利用団体の審議について記載しており、折り紙、朗読、ストレッチ・練功十鉢法の３団体が新しく利用団体として認められている。

○進藤委員

西部公民館の子育てセミナーに毎年関わらしていただいており、また、障害児と健常児が一緒に科学実験を体験する講座が数年前に２・３年続けてあったが、そちらの手伝いもしていた。社会教育計画の中に、社会教育活動に参加しにくい方向けの講座を企画するような内容があり、障害児でも色々なタイプがいて、すべての人を網羅する講座は難しいが、そういう企画に参加できる方もいるので、そういう人が参加できる機会があるとよい。

もう１点は、以前、北部公民館で障害平等研修と言った名前で、障害がない人が、例えば視覚障害の人の中にいると真っ暗でも彼らは動けるけど、私たちは活動できない、私たちの方が障害のある立場になるような体験を Zoom で行ったことがある。立場を変えてみたら、その人たちもできる所もあり、よいところもあり、私たちが出来ない所もあるみたいなことを課題にする講座があって印象に残っている。一般の人が障害について理解する講座は、とても大事だと思っている。企画するのは大変だと思うが、何かそういう企画を年に１回でも企画していただけたらとてもありがたい。

○東部公民館長

障害者の関係については、なかなか対象の幅が広いところである。各館で行っているのは、引きこもりの方たちに１歩出てもらおうというようなところなどを行っている。また、令和８年度については、スマホの関係で東京都との連携であるが、視覚障害・聴覚障害の方を対象にしたものがあるので、そちらを対応していきたい、

○平澤委員

公民館には、不登校の子も来るだろうし、何となくただ来られる人もいるだろうし、講座だけを行っているわけではないと思う。色々な方が来られていると思うが、その際に、職員の方々が市民の方にどう接していけばいいかとか、方針のようなものはあるのか。

○東部公民館長

一例で言うと、公民館を訪ねて来て、こういう活動をやりたい、興味があるという方については、各公民館で活動している登録団体の一覧表が年１回更新しているので、そちらを案内して、繋ぐというところが挙げられる。

○金井委員

公民館の利用者数については、先ほど会議の中でも話をしたが、コロナ禍前へ戻りつつあるみたいな話があったが、何か数字の目標というか、来館者を増やすための目標があるのか。数字目標を各館で設定していたりするのか。

○東部公民館長

各館においては、目標値というものは設定していない。事業展開においては、非常に人気のあるコンテンツ、例えば料理であったり、児童向けの科学であったり、恐竜であったりというのは人気があるので、人数設定をしたうえで、要望が多いものについては、講師の方との協議にもなるが、何とかその定員の枠を越えた調整をしたうえで受け入れている。例えば、東部公民館においては調理室があるので、調理の人数はある程度限られてしまうが、調理をする人と、見学で調理を見る人というところで分けて、枠を広げているところである。ＳＮＳが発達してＹｏｕＴｕｂｅなどで料理の動画などを見る機会もあるが、その場に来て、体感するというのは、画像では得がたいものがあるというところで大変好評を得ている。なるべく来てもらえる事業を展開するし、今活動している団体の方で人数が少ないという場合には、共催事業を打って人数を増やして活動を活発化していくというような努力をしている。

○原田委員

説明いただいた公民館事業計画は、３公民館側が市民に向けてこういう事業をやりますよという方針内容であるが、例えば設備的な改善であったり、従業員への職場改善であったりという点については記述がないが、この計画に書いてないものについてはどうなっているのか。

○東部公民館長

こちらの内容は事業に関する計画であるので、施設の修繕となると、公共施設マネジメント計画といったものがあるので、そちらに基づいて行っている。社会教育施設の予算については、限りなく少ないところもあるので、例えば東部公民館では、令和６年度に空調設備改修工事があり、そちらの契約差金を見越して、財政課との協議のうえ、昭和６３年頃に購入した机を全部入れ替えたり、ドアノブを交換したり、畳の入替を行ったりなどした。昨年度は、東部公民館５０周年の記念の年でもあったので、その前に色々と修繕を図ったところである。

○塚松委員

私は学校教育の方に関わっており、今地域学校協働本部、コミュニティスクールという形で、地域と学校が連携していこうという流れに調布市ではなってきている。その中で、この３月に西部公民館で、第三小学校の子どもたちと作品展でご一緒させていただいて、学校としてもとてもよかったし、当時の西部公民館の館長さんからも、とてもよかったという話をいただいた。普段は公民館に来られない方たちが来て、大変盛況だったと伺っている。それぞれ３公民館で、地域に小中学校があると思うが、うまく協働本部やコミュニティスクールとの連携を今後していけるような企画があればよいと感じている。

○東部公民館長

東部公民館においても、学校との連携を行っている。例を挙げると私立の桐朋女子中・高等学校とは、令和３年３月頃から桐朋女子の生徒が来られて、それからのおつき合いを続け

ている。今は、１年間で多い年で１０本程度の事業をしており、今回、調布市青少年表彰を受賞する形になった。

加えて現在、当館の公民館専門員が、東日本大震災の被災者の関係者であったことから、「調布市防災教育の日」に調布市立第八中学校で登壇している。今回２回目となるが、その際の生徒たちのアンケートを一覧で飾っているので、是非、皆さんにご来館いただき、ご覧になっていただきたい。

○篠﨑議長

予算はやはり少ないのか。

○東部公民館長

予算は少ない状況である。

○篠﨑議長

社会教育は、ある程度、どうしても施設とか色々なところにお金がかかるが、それは認められないのか。

○東部公民館長

予算要望はしているが、市全体としても予算が厳しく、例えば修繕なども含めると、基本ベースは前年度予算又は決算に基づく金額がベースとなる。市全体では調布駅前周辺の開発などもあり、優先順位がどうしてもついてしまう。

○篠﨑議長

東部公民館のエレベーターは何年かけて作ったのか。

○東部公民館長

私が聞いているところでは、要望自体はかなり前に行っている。資材の高騰などもあったが、令和５年度にようやく約８３００万円をかけて完成したので、委員の皆様全員、是非、完成したエレベーターを見に、利用しに来館ください。

(ｲ)　調布市図書館事業計画（資料４－２）

配布資料のとおり、図書館副館長から報告した。

○原田委員

最後の施設整備の部分で、整備事業が３箇所あるとのことだが、１度に行うのは大変だと思われるが、こちらのスケジュールは決まっているのか。

○図書館副館長

それぞれで計画が動いていたが、入札の関係がずれ込んだり、緑ヶ丘分館については東京都の事業であったり、偶然に同じ年度になってしまい、今、３つの整備事業をいっぺんに行

っている。新しい宮の下分館については、令和９年度の早い時期の開館を予定しており、緑ヶ丘分館、若葉分館については令和１０年の開館を予定している。

○篠﨑議長
　図書館のＩＣタグは便利であるが、ＡＩでの検索などについては導入を検討しているのか。

○図書館副館長
　現時点での具体的な計画はないが、いずれはその点も視野に入れていくことになる。

○篠﨑議長
　方向性としてデジタル図書館の方向には行かない感じなのか。

○図書館副館長
　現時点では難しい。令和１２年度にシステムの更新を予定しているので、その頃には少し、進展があると思われる。

○篠﨑議長
　システムを変えるとなると、予算がとてもかかる。

○図書館副館長
　システム自体は、今のシステムをそのまま使い続けるか、新しく入れ替えるか、今後検討していくことになる。

○進藤委員
　ＩＣタグを入れて、たづくりの１階でも予約本を受け取ることができるようになり、大変よいことだと思っているが、予約の件数が増えたりするなど何か変化はあったのか。

○図書館副館長
　昨年度の実績では、予約の件数は１昨年度から増えているが、全体の貸出件数は、少し減ってきている。深大寺分館が空調改修工事で休館した影響もあるが、実際に図書館で本を借りるということ自体が少しずつ減ってきている印象があり、数字上にもそれが出てきていると思われる。

○進藤委員
　世の中の流れではある。場所を取らない電子書籍が普及し、漫画についてはほとんど電子書籍になってきている、

○図書館副館長
　このほか、以前は調べ物に来ていた方たちが本を借りて調べていたが、今はインターネッ

トで検索してそれで済ませる方が増えている。

○進藤委員
　レファレンスサービスがすごくよい。丁寧に相談に乗ってくれて、一生懸命探してくれるので是非活用しに来てもらえるとよい。

○図書館副館長
　入館者数については、１昨年度より昨年度の方が少し増えており、レファレンスサービスのある５階への来館者が昨年度の方が少し増えている。

○進藤委員
　それは大変よいことである。

○塚松委員
　図書館で中高生が紹介して、おすすめしている本の展示などよく見させていただいて、とてもよい取組だと感じている。若い子たちが、お互いに勧め合って、色々なことを知りたいと思うような環境を作っていくことは、とても大切なことである。
　１点質問があるが、毎月第１日曜日に４年生～６年生を対象にした小学生向けの読書会の記載があるが、参加する小学生はどのくらいの人数が実際いるのか。

○図書館副館長
　会場の関係で会員となれる定員を３０人から４０人程度と決めており、例年割と定員に近い入会があるが、昨年度と今年度は、若干余裕があり、定員に達しない間は、来ていただいた児童には入っていただく形で行っている。その子たち向けの本の紹介をしている。会員のうち、だいたい十数人は、いつも参加している。

○篠﨑議長
　２０代前半ぐらいの人たちの利用は結構あるのか。

○図書館副館長
　数字の取り方として、２０代前半という形では数字を取っていないが、一番利用者が少ないのがそのあたりの年代である。貸出登録自体も少ない年代である。中高生に今力を入れているのは、小学生の頃は割と保護者の方や学校の子どもたちと一緒に図書館に来てくれるが、中高生になると、部活や受験などで忙しくなり、図書館に来る時間がなくなり、遠のいてしまうというのがある。その世代が図書館になるべく来やすいように、興味を持ってもらえるようなことを考えている。

○篠﨑議長
　私も演劇を行っており、演劇祭を主催しているが、その演劇祭に参加してきている中でも２０代前半の劇団員たちは少し考え方が変わってきており、普通の団体が劇場で芝居をす

るのに対して、今の若い人たちの中には、喫茶店のような場所で芝居をしている。それも集まって見るのが７、８人ぐらいで、横にカメラを置いて、世界へ発信している。会計的にはどうなのか質問すると、世界に発信すると儲かるという話であった。そういうのが今年は３団体ぐらいあり、考えられないぐらいに変化している。図書館でもそういった少し変わった若者の取組などはあるのか。

○図書館副館長
　図書館では、そういった取組は聞いていない。

○進藤委員
　ヤングアダルト向けの世代に受けるような作家を呼んで講演会をしていると思うが、それには若い人たちが多く来るのか。

○図書館副館長
　昨年度、辻村深月（つじむらみづき）さんや汐見夏衛（しおみなつえ）さんの講演会を開催したが、定員いっぱいまで申し込みいただいた。

○進藤委員
　高校生や大学生で申込みがいっぱいになることは、なかなかないことである。

○図書館副館長
　高校生や大学生に魅力を感じてもらえるような企画、そこは重要であると感じている。

(ｳ)　調布市郷土博物館事業計画（資料４－３）
　配布資料のとおり、郷土博物館長から報告した。

○進藤委員
　郷土博物館に小学生が訪問し、展示を見せていただいて、そのことを結構ずっと覚えていると聞いているので、大変貴重な体験だと思う。

○塚松委員
　地域コーディネーターとして第三小学校に関わっている。最近は職員の方が出前授業に来ていただいているが、せっかく近くによい博物館があるのだから、児童が博物館に行ってほしいと思っている。おそらくコロナの影響で、博物館に行かなくなって、学校へ来ていただくようになったと思われるが、その点は元に戻らないのか。

○郷土博物館長
　昨年度からは、博物館に来てもよいし、出前授業にしてもよい形にして、どちらかを選択できるようにした。先生方は学校に来てくれた方が楽であり、特に遠くの学校はバスに乗って来るため、住宅街の中にあり不便なところもあるので、出前授業が重宝されている。博物

館に来てくださる学校も３校程度ある。

○塚松委員
　博物館の方も実際に来てもらえた方がやはりうれしいと思うが。

○郷土博物館長
　企画展のほかにも、常設展も行っており、子どもはとても興味を持つので、来ていただきたけるとありがたい。

○塚松委員
　機会があれば是非、博物館へも行くように先生方にも話をしたい。

(ｴ)　調布市武者小路実篤記念館事業計画（資料４－４）

配布資料のとおり、武者小路実篤記念館事務局長から報告した。

○篠﨑議長
　実篤記念館の庭園（注：実篤公園）の手入れは、結構手間がかかると思うが、どのように管理しているのか。

○実篤記念館事務局長
　私どもは日常管理を受託しており、大がかりなものは全部、市の緑と公園課が主管課であるので、対応をお願いしている。木が大きくなりすぎて鬱蒼となり過ぎたり、施設が少し老朽化してきているので、今後少し力を入れて、手を入れたほうがよいと思っている。散策など非常に市民に喜ばれているので、そういったことに支障がないような維持管理をやっていきたい。

○篠﨑議長
　維持管理予算は少ないのか。

○実篤記念館事務局長
　日常管理を行うには十分とまではいかなくても、一応必要な額をいただいているが、本格的に手を入れるとなると、調布市で、それなりの予算を用意していただき、市の直接事業として工事をしないと難しい。

○塚松委員
　昨年特別展に行って、大変よかった。庭園を散策するのにちょうどよく、ただ、その時に雨上がりで、石に苔があって園路が滑りやすかった。そういった部分についても日常で何か手をいれているのか。

○実篤記念館事務局長

園路ついては、公園の雰囲気を壊さない程度に手を入れている。砂利を敷いてみたり、凸凹になった箇所を土で埋めて平らにしたりしている。歩きやすさを考えると、コンクリートやアスファルトで固めるのが一番であるが、そうすると公園の雰囲気が完全に壊れてしまう。また、国分寺崖線に位置しているので、補修にも限界はあるところである。

(ｵ)　調布市教育部社会教育課事業計画　（資料４－５）

時間の都合上、資料配布のみとし、事務局からの報告と質疑応答は割愛した。

(3)　協議事項

ア　令和７年度調布市社会教育関係登録団体活動事業補助金の申請団体について資料（資料５－１，５－２，５－３）

配付資料のとおり事務局から説明した。

○篠﨑議長

何か意見や質問はあるか。

○進藤委員

資料５－１の表の資料は、昨年度までは倍のサイズで印刷してもらっていたが、今年はＡ４サイズに印刷されているため文字をもう少し大きくした資料にしてもらえると読みやすい。

○事務局

読みやすいように今後資料を改善していく。

○塚松委員

申請されている団体がどの程度活動されているのか、助成金を得て活動されている各団体の活動内容について社会教育委員が知ることができる仕組みはあるか。

○事務局

助成金の申請や交付の際には、各団体の一覧を作って、その中でどのような活動をしているのか確認しているが、細かい活動を記載しているものは公開していない。

○塚松委員

活動内容を我々が知ることは中々難しいということか。

○事務局

申請書類に記載されている内容レベルであれば、もう少し配布資料に詳細な内容を落とし込むことはできるので、次年度以降に検討する。

○塚松委員

長年支援して活動されているのであれば、社会教育委員としても活動内容について知っておいた方がよい。

○金井委員
資料を見るとフィルハーモニー管弦楽団などにも補助を出しているが、一般の人たちも見に行くことができる事業なのか。

○事務局
そのとおりである。

○金井委員
補助を出す、出さないの違いは、団体として補助金を申請するか、しないかの違いという認識でよいか。

○事務局
まず前段として調布市の社会教育関係登録団体としての登録が必要であり、その団体が市民に広く公開して行う事業に対して補助金を交付して活動していくものである。

○金井委員
社会教育関係登録団体になるためには、要件があるということか

○事務局
そのとおりである。市の規則で登録基準を設けており、８項目ほどの要件があり市のホームページにも公表されている。具体的には、団体の構成員が１０人以上で、その３分の２以上が市内在住・在学・在勤又は在学であることや、営利を目的としないなどの要件があり、それらの要件を満たしている団体が申請したうえで承認の可否を決定している。

○篠﨑議長
他に意見がないようであれば、これらの団体については，交付の方向で事務を進めていただくということでお願いしたい。

イ　調布市社会教育計画について（資料６）

配付資料のとおり事務局から説明した。今後の調布市の社会教育施策をさらに推進していくために、調布市社会教育計画の内容を教育プランの中に入れて位置付けていくが、調布市社会教育計画自体がなくなるわけではないこと、社会教育計画については、社会教育委員で立案して内容を固めてもらう形で従来のやり方と変わらないことを確認した。

○事務局
始めに調布市教育プラン策定委員について、委員の間で決定していきたい。

前回の会議で委員の立候補、推薦者等を検討しておくように依頼したところであるが、本会議にて正式に決定していきたい。

○進藤委員
教育プラン策定委員に障害者親の会から推薦を受けており、そちらで委員になることが決まっている。

○塚松委員
地域学校協働本部のコーディネーター代表として教育プラン策定委員に推薦されていることが決まっている。

○事務局
それ以外の委員の中で立候補、推薦者はいるか。

○篠﨑議長
社会教育計画を作るというのが我々の大きな役目であり、教育プラン策定の検討も踏まえて風通しよくやっていただくために、副議長の土橋委員を推薦したい。

○事務局
その他の委員で推薦や意見等はあるか。

○篠﨑議長
それでは、意見がないようであれば土橋先生に委員に就任していただく方向でお願いしたい。

○土橋先生
よろしくお願いいたします。

○事務局
次に第３期調布市社会教育計画の振返りを行っていきたい。
（事務局から資料に基づき説明）

○原田委員
教育プランと社会教育計画で記載されている内容は同じものなのか、どちらかが範囲が広いということはあるのか確認したい。

○事務局
教育プランに記載されている内容を社会教育計画に細かく落とし込んでいる。内容としてはイコールとなる。計画の進捗管理は、教育プランの点検評価の中で実施している。

○進藤委員

現行の教育プラン施策８（ジュニアリーダーの講習会の修了者数）と施策１０（実篤記念館・郷土博物館の来館者数）の成果指標については理解できるが、施策９「生涯学習社会への対応」の成果指標である図書館・公民館の満足度の設問は、質問がフワっとしている。しかも、それぞれの来館者から取った数値ではなく、市民意識調査からとった数値であり、成果指標が本当にこの内容でよいのか疑問である。この施策だけ評価が「Ｂ」となっている。無作為抽出のため、公民館や図書館を全く利用していない人も回答者に含まれていることを考えると結果として満足度の数値が上がらないこともあるのだろうと推察できる。この項目だけ指標の範囲がとても広いと感じている。

○事務局

現行プランの成果指標は、定数的に客観的にとれる指標として、この内容をプランに入れたと思われる。

○進藤委員

この成果指標の数値の結果で、施策全体の評価が決まってしまうのか。施策８と１０の指標は努力すれば上がるかもしれないが、この指標については数値を上げるのは難しいのではないか。せっかく行っている社会教育の評価がこれだけで「Ｂ」が付いてしまうのもどうかと思う。満足度というのは自分の興味に合っていないと上がらないものである。

○篠﨑議長

進藤委員が発言したように、満足度という指標で施策の評価が決まってしまうと、頑張っても「Ｂ」のままになってしまう恐れがある。違う形の指標が何かあるとよい。

○進藤委員

社会教育に対する評価というのは中々難しい。どちらにしても参加した人と参加しない人で評価が異なる。

○原田委員

捉え方次第ではあるが、すべての評価が「Ｓ」や「Ａ」であると、全部が上手くいっている状態であるため、それ以上の目標がない。こういう指標の評価では、悪い状態を見つけて、それをどう改善していくのかを浮き彫りにするために行うものあることから、全部「Ｓ」だったらいいというものではなく、なんで「Ｂ」なのか、「Ｂ」を「Ｓ」にするためには何が必要なのかを考えることが大切である。「Ｂ」を「Ｓ」や「Ａ」に改善できる方法がない指標であるのならば、指標の設定としては意味がない。あいまいすぎる指標であると「Ｂ」でも仕方がないで終わってしまうので、設定が難しい。

○事務局

成果指標については教育プラン策定の中でも議論されるので、いただいた意見を踏まえて検討する。

○篠﨑議長
　教育プランと社会教育計画が同じものになると、表現が難しい。我々は社会教育計画を作らないといけないわけだが。

○事務局
　社会教育計画として載せている事業については、すべて教育プランの中の、主要事業の中に位置付けは全部ある。そこで細かく書いているか、書いていないかという差にはなるが、教育プランに位置づけがないものが、社会教育計画に載っていることはない。

○進藤委員
　施策９の成果指標の対象は、図書館、公民館の満足度なので、図書館と公民館の事業に関わる内容であるが、これに入らない社会教育事業というのはあるのか。例えば、社会教育課で行っている障害者向けの事業（遊ｉｎｇ）だとか。公民館では障害者向けの事業はほとんど行っていない。個別の事業というのは成果指標の内容には反映されないが、施策９の内容としては入っている。個別の事業は、評価の判定にはかかわらないのか。

○事務局
　個別の事業については、成果指標とは別に施策９の振返りシートを見ていただくと、実際に毎年少しずつ増えていて、今後も行っていくとういことを記述している。

○進藤委員
　あくまでも、ここの部分の評価を成果指標にしているということで理解した。

○事務局
　今後のイメージであるが、社会教育計画の中で記述していた部分を、ここの主要事業の中にもともと入っているが、さらっと１行程度しか記載がなかった部分を、もっと細かく書いて、しっかり実効性があるようなものを載せて、それが最終的に点検・評価のときにこれはどのくらい進んだのかというのが見える化になってくるので、そういう形にして、しっかり進捗管理ができる形をとりたい。

○進藤委員
　「Ａ」や「Ｂ」などと評価が出るときに大学の教授など判定する人がいると思うが、その人たちの講評は出ているのか。

○事務局
　出ている。評価シートに対して評価委員がいるので、そこからも評価していただいている。各課で評価したうえで、最終的に評価委員によっても全体の点検の中で見ていただき評価している。

○進藤委員
　指摘された「Ｂ」評価になっている内容について、図書館や公民館が次の期に改善していく取組を行うようにしていくということか。

○事務局
　実際に回答があって、各課がそれを踏まえて今後のアクションを検討していくことになる。外部の目も入り、そこの中の評価も踏まえてアクションをしていくので、より実効性や課題の抽出が進んでいくことになる。振返りについては、何かまた意見があれば伺いたい。
　次に教育プランの体系についての確認であるが、確認の内容としては、見ていただいている施策８、９、１０のそれぞれにぶら下がっている主要事業。例えば、施策８であれば主要事業は３つぶら下がっていて、施策９については主要事業が４つぶら下がっている。施策の１０では主要事業が２つぶら下がっている。基本的には、ここの体系について現時点では変えずに、この中身を検討していきたいと考えている。この点について何か意見があれば伺いたい。

○進藤委員
　教育プランの点検評価は、どの程度の頻度で行っているのか

○事務局
　毎年実施している。

○進藤委員
　教育プラン自体を作り直すのは４年に１回ということか。４年経過したときにもまた社会教育計画の部分も変えていく必要があるのか。

○事務局
　そのとおりである。社会教育分野の計画については、社会教育委員の会議の中で毎年点検評価をしていくことで、次回以降にどのような方向性で進めていくか考えながら検討していきたい。改訂の時期になれば、毎年の点検評価により積み重ねてきた部分があるはずなので、１から勉強するようなことはなく検討に臨めると考えている。

○塚松委員
　社会教育施設の満足度に関する成果指標の話に戻るが、この施策９には主要事業２９と３０がぶら下がっているっているということで、主要事業の指標は、社会教育施設の満足度プラス、主要事業２９・３０に関する何か、市民意識調査のようなざっくりしたものではなく、例えば、遊ｉｎｇとか、そういった利用者の満足度調査というのもやはり入ってこないと、この成果指標の出し方では偏りが出るのではないかと感じている。その点は忘れないようにした方がよい。

○原田委員

今の話で、施策９は主要事業３１、３２も含めた４つの評価であると思われるが、例えば公民館・図書館の利用状況や利用団体の数などを指標にすることも考えられる。数値目標をどこに設定するか議論の余地はあるが、現状の満足度といった観念の話よりは分かりやすいと思われる。

○篠﨑議長
そういう成果指標に使える数字を１回出してみてはどうか。

○事務局
指標に使えそうな他の数字については、この施策を所管する事務局とも話をしてみる。
話を戻すが、この体系については現時点ではとりあえず、この従来ある形の中で中身を詰めていくということで大丈夫か。

○原田委員
皆さんが、体系としてこれが作りやすいのであれば、これがいいのだと思う。
逆に今これが上手くいっていない部分があるのなら、その点は変えたほうがいい。

○事務局
基本的に事務局としてもこちらのプランの中で、体系をキープして、検討していきたいと考えている。

○平澤委員
確認であるが、社会教育分野の施策が８・９・１０とあり、施策８の主要事業が３項目、施策９の主要事業が４項目とある中で、成果指標というのは、なぜここだけの内容しか取り上げられていないのか。

○事務局
評価自体は、施策単位で行っている。施策の中には主要事業が何個かぶら下がっており、主要事業ではそれぞれ振返りはするが、主要事業ごとには評価をつけずに、それを踏まえて施策全体で評価している。成果指標については、どの項目を基準に置くかということにはなる。

○進藤委員
ということは、例えば満足度の数値が目標値に足りなくても、施策９で言えば４つの主要事業がすごく充実しているという何かがあれば、評価する委員は「A」をつけることもあるということか。

○事務局
評価については、成果指標の部分と、個別の主要事業の両方から見て、総合判定で「A」や「B」をつけている。成果指標の数値があるので、その点を加味して、B評価になること

ももちろんあるが、それだけを見て総合評価を付けているわけではない。成果指標は、施策の体系ごとに１個のみ代表的なものを入れている。

○原田委員
　たくさんある指標の中から絞って、代表的な指標をＫＰＩにしようとしているのであれば、各施策の中で一番重要なものがそこに上がるべきである。それを作ったときには、さきほどの図書館と公民館の利用者数よりも、意識調査の満足度の方が重大だと捉えて、それを１個選んで使用しようとしたということになる。

○進藤委員
　数値化しやすいというのもあると思われる。

○事務局
　「Ｂ」が決して悪い評価なわけではない。「Ｂ」は実施した取組において一定の成果がえられた、「Ａ」は実施した取組において予定した成果がえられたという点が異なる。

○進藤委員
　これだけを単純に見ると、去年は良くないように見えてしまう。一般の人は何が悪かったのだろうと思ってしまう。

○原田委員
　確かに「Ｓ」ならいいのかという問題はあるが、「Ａ」から「Ｂ」になってしまうと引っかかる点もある。

○進藤委員
　今年はよくなかったと評価されてしまった、では全体のどこが良くなかったのかみたいに捉えられてしまう恐れがある。

○事務局
　いただいた意見を踏まえて検討していく。

○土橋副議長
　成果指標の目標値が、上段の図書館が８５％で、下段の公民館が８０％になっているが、この違いは何か。

○事務局
　目標値の隣に基準値という数値があるが、この数値は前回のプラン策定前の令和４年度満足度調査の数値が入っている。その時の数値は図書館が 80.7％で、公民館が 74.4％である。目標として、そこから、それぞれ５％上げていくということで、スタート地点の数値が違うので、目標値の数値も図書館と公民館では異なっている。

○事務局
　もう１つ、本日話し合いたい内容として市民アンケートの等のニーズ調査があるので、こちらの検討に進みたい。

※市民ニーズ調査について事務局から資料に基づき説明。市民ニーズを把握する意図、調査目的や調査内容について説明。前回の社会教育計画改定時に実施した内容について説明後に今回の改訂に係る市民ニーズ調査の把握方法の案を説明した。また、調布市社会教育関係団体宛の団体向け調査と市民向けの個人宛て調査を検討していること、社会教育関係機関（公民館運営審議会、図書館協議会）への報告等も検討していること、アンケート項目については、他市の事例も参考にしながら検討していくことなどを説明した。

○原田委員
　関係団体に対する質問の仕方は、あくまで関係団体が行っている役割に基づいて、どう思っているのか、行政に行ってほしいことは何かという聞き方で、個人や市民に対する質問は、社会教育全般的なものに対する質問という認識でよいか。

○事務局
　団体については、各団体が活動することに対して、どういう課題があって、今後それに対して何か支援を行政として必要なものがあれば教えてくださいということと、調布市の社会教育事業に対して意見等があれば回答をお願いししたいという２本について、個人に関しては、個人で社会教育について意見を述べることは中々難しいので、市民個人が思っているような部分について、市民意識調査やアンケート結果などをもとに、社会教育行政として今後何を行っていけばいいかという点を踏まえ設問を検討していことを考えている。

○塚松委員
　以前に子ども・子育て会議の委員をやっていたときに全学校ではないが、中学校にお願いして、子どもからのニーズを拾うという意味でアンケートをとったことがある。社会教育の中にも、家庭教育などを通して学校と少なからず、子どもたち、地域で子どもを育てるという意味も含めて、学校と関わる部分があると思うので、そういった意味でどこか学校に依頼して、児童や生徒からアンケートをとることも、考えてみてはどうか。

○事務局
　子どもへのアンケート調査については、教育プラン改訂の中で、子ども・若者からの意見聴取という項目があるので、そちらで行う予定である。

○塚松委員
　今の保護者は、なかなか市報を見たり、そこに辿りつかないことが多いと思う。直接働きかけるような何かがあった方が、ニーズを拾えるかなというのはいつも思っている。

○事務局
　アンケート調査のやり方については、事務局として検討していきたい。

○篠﨑議長
　個人への設問は、どういう事業であれば参加したいなど、基本的な部分だけを聞いていく方がよいと思う。以前に調査した時は色々な項目が入ってきてしまい収拾がつかなくなった。

○事務局
　個人へアンケートをとるとなった時は、社会教育施設や利用者が調査票を手に取って回答できるようなものにした方がよいのか。

○篠﨑議長
　無作為に調布市で選んでおいて送って行ってみたらどうか。

○事務局
　その場合には、社会教育施設へ行ったことがない方や社会教育との関わりがない方にも届いてしまう可能性もあるが、それでもよいか。

○篠﨑議長
　むしろその方が後々データにはなる気がする。同時に、広報的にもそういう人たちにも興味を持ってもらえる。

○進藤委員
　以前に行った図書館の中高生向けアンケートでは、学校へも依頼している。学校が絡む形もありかなと思う。無作為抽出であると高校生や会社員の回収率がとても少なくなる傾向があった。高校生はＱＲコードを読んで回答することは上手にできるが、図書館について意見をいただきたいという設問には、あまり答えてくれる人がいなかった。

○事務局
　個人向けのアンケート調査を行う際は、基本的にやはり無作為というよりは、調布市のＬＩＮＥ登録している方に対してアンケートの協力を出すことになる。完全な無作為抽出は基本的に想定していない。

○進藤委員
　無作為抽出で行った場合、郵送や回収してからのデータ整理がとても大変である。

○事務局
　例えば、無作為のＬＩＮＥアンケートと合わせて、それ以外の方法でも回答できるように、

窓口での調査票の配架みたいことを合わせて行うことはできると思うので、その線で検討する。学校へのアンケート協力についても併せて検討する。

○塚松委員
　学校に協力してもらえると、子どもがいる家庭には確実に届くと思う。

○事務局
　ターゲットごとに質問内容を変えた方がよいのか、個人宛の質問は、内容を統一したほうがよいのか御意見を伺いたい。

○篠﨑議長
　個人宛の質問は、統一しておいた方が後で価値が出る。バラバラにしてしまうと調査の意味がなくなってしまう懸念がある。

○事務局
　個人宛の回答は、学校経由での依頼と無作為の方と、それ以外の窓口の方みたいな方法で検討していく。今は団体の方しか設問を作ってないが、事務局で案を作成して、委員の皆様にメール等で照会していく。

○進藤委員
　先ほど個人宛のアンケートで、市の社会教育事業に関する意見についての説明があったが、社会教育事業というのが何を指しているのか説明をつけてあげないと分からないと思われる。

○事務局
　社会教育関係団体や学習グループの方は、前提が社会教育のため分かっているが、個人はその前提があまりないもしれない。他市の事例も参考にしながら社会教育行政が何を行っているのかについての説明も検討する。

○原田委員
　社会教育事業といった用語を使わなくていいのだとすると、施策の中にある事業１つ１つ、例えば家庭教育への支援とか、地域で活躍できる人材の養成とか、それぞれに対して質問すれば、この結末が社会教育ということになる。

○事務局
　施策に対して意見を聞くことについても検討する。委員からの意見を踏まえて、事務局で個人宛のアンケート案を作成して、また皆様に照会させていただきたい。
　最後に今後のスケジュールについて確認する。本日の会議で、振り返りや市民ニーズ調査の話し合いをしたが、次回からは実際に中身の検討に入っていく。かなりタイトなスケジュールであるが、７月７日と７月３０日、それと９月の３回の会議の中で内容を検討していく。

検討方法については、前回に施策１個ずつを検討していくと説明していたが、時間の都合もあることから、社会教育分野の３施策を同時に、３回の会議にてしっかり検討していくことを考えている。さらに、社会教育課以外にも各公民館、図書館、郷土博物館についても、会議に来ていただくか、オンライン参加の形になるかは現時点では決まっていないが、会議に参加していただいて、内容を把握しながら、計画していきたいと考えているので、よろしくお願いいたしたい。

(4)　次回日程

○篠﨑議長

次回の日程について事務局から報告をお願いしたい。

○事務局

次回の会議の日程は、令和８年７月７日（火）午後１時３０分から、教育会館３０１研修室での開催を予定している。

(5)　閉会

○土橋副議長

本日は次期社会教育計画のことや各館の事業計画など色々と貴重な報告を受けた。調布市内の色々な所で、今後もずっと活動が進められていくのだということを感じている。委員の皆さんも機会があったら、足を運んでいただきたい。今日は長い時間ありがとうございました。